

●「赤心」継がん

Dream

五代塾
Godaijuku

Sinbun (新聞)

第 26 号

発行：Dream 五代塾

吹田市千里山西 5-14-17

発行責任者：理事長 川口 建

— 外国と通商をひらくには、貿易品の第一は金銀なり、 農工と鉱山は国の本なり —

藩主島津斉彬の言葉「外国と通商をひらくには、貿易品の第一は金銀なり」

「農工と鉱山は国の本なり」を実践すべく

五代友厚は鉱山開発計画に着手していく

五代友厚の鉱山開発前史

Dream 五代塾会員 上村 修三

(五代友厚顕彰会世話人)

五代友厚とモンブラン伯爵

1865年、五代友厚（以下、五代）らの薩摩藩第一次英国留学生使節団（以下、一行）がロンドン滞在中、一行にフランス貴族モンブラン伯爵（1832-1893）が接触してきた。モンブランは日本への関心が高く、文久年間には来日を果たし、日本語、日本の文化や鉱山学にも精通していた。

モンブランの招待で五代、新納久脩、堀孝之はベルギー・フランスへ渡った。五代らは、モンブランの案内で首都ブリュッセルに赴き、ベルギー政府当局者の立ち会いのもと、「ベルギー商社」設立仮契約を締結した。

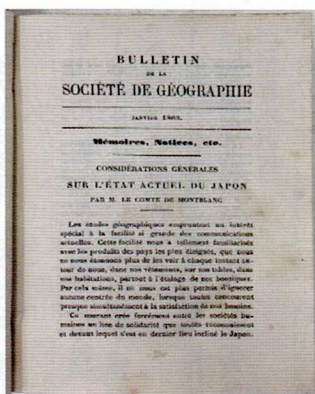
その内容は、つぎのようなものであった。

- ・モンブランがベルギーを代表し、薩摩藩と合同で会社「ベルギー商社」を設立する。
 - ・薩摩藩内の鉱山資源を開発して、製造機械や武器を作る。
 - ・生糸や茶の増産を図りヨーロッパとの貿易を促進する。
 - ・利益は双方の出資額により配分する。
- ・薩摩藩が軍艦や大砲を購入するときは「ベルギー商社」を通して注文する。

なお、薩摩藩は、親英政策を藩方針としたため、「ベルギー商社」は結局設立されなかった。

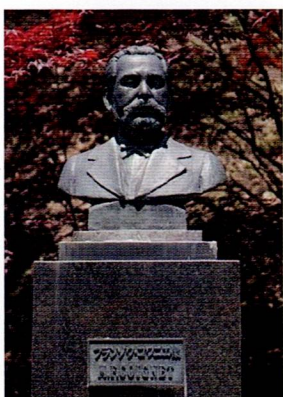
モンブラン、仏人鉱山技師コワニエとその通訳者朝倉盛明

白井智子氏の「幕末期の薩摩藩とお雇い外国人鉱山技師」によると、モンブランは、日本の地質、地下資源への造詣が深く、パリ地理学会会報に「日本の現状に関する一般的考察」（1866）の論文の中で、「皆が日本について一致して言うことは、鉱山の数の多さと資源の豊富さである」と記述している。また、白井は、モンブランとコワニエとの接点は、パリ地理学会であった可能性が高いと推察している。



モンブラン他（編）
「日本の現状に関する概観」
（『地理学協会誌』1866年1月号）

1867年、モンブランの斡旋により薩摩藩は仏・サンテチエンヌ鉱山学校で学んだ優秀な仏人鉱山技師コワニエ（1835-1902）コワニエとも訳す）を招聘し、コワニエは夫婦で薩摩入りした。コワニエの通訳担当が一行の一人朝倉盛明（本名田中静洲、1843-1925）であった。朝倉は、英国から渡仏し、モンブランの下で鉱山学を学んで帰国した。コワニエと朝倉二人は山ヶ野金山や錫山



生野銀山鉱山前に建つ
ジャン＝フランソワ・
コワニエの胸像

など薩摩藩内の鉱山調査に当たった。

生野銀山とコワニエ・朝倉

生野銀山は明治元年（1868）に、明治政府の最初の官営鉱山となったが、当時は極度の経営不振が続き、休山同様の状態であった。その打開策として薩摩藩が雇用していたコワニエに着目し、薩摩藩に譲り受け交渉をして、政府の鉱山関係お雇い外国人一号として生野銀山派遣となった。新政府の鉱山行政機関（1868年、幕府の銅座役所↓会計事務局↓鉱山局↓鉱山司と改称）は当時大阪（現在の中央区今橋）にあり、コワニエの薩摩藩雇用尽力した五代が大阪府判事の要職にあったことから、鉱山司と五代との間には緊密な接触があり、更に新政府の参与井上馨の強力な推薦もあり、コワニエ政府雇用の折衝が五代によって急速に進められた結果、コワニエ政府雇用が決定した。



明治政府官営鉱山管理を担った、
大阪鉱山司跡。1880年、跡地に
愛珠幼稚園が開園した。

コワニエは、生野銀山の建設計画を立案建議し、採鉱、選鉱、製錬の機械化を進め、近代鉱山としての発展の基礎を完成させた。コワニエと生野入りした朝倉盛明は、鉱山長を務め、生野銀山中興の功績は大きく、朝倉なくしてコワニエなく、コワニエなくして朝倉は存在しないと言われた。二人の尽力により、火薬爆破の導入、軌道（日本で初めて築かれた高速産業道路「銀の馬車道」）の敷設、蒸気機関によるエレベーターの設置など、先進技術により鉱山の生産力を増強等により生野銀山は最先端の近代技術・設備化を有する日本一銀を産出する鉱山となった。朝倉は、最後には生野鉱山局長になっている。コワニエは実学的な

鉱山教育をおこなうべく1869年に生野鉱山敷地内に修学実験所を開設している。1871年に

は、別子銅山を再興した広瀬幸平はこの学校で近代的技术を学び、現地で採鉱実習もした。コワニエ・朝倉に学んだ多くの技術者が、その知識とともに全国に広がり、明治の鉱山開発を支えることとなった。1870年、コワニエは参議大隈重信の求めにより「日本抗政の策」を提言する。その中で「日本の鉱業政策の一つの方向として、将来的に鉱山は民間資本による経営が望ましいこと、その条件が整うまでは官営鉱山として経営すること、金や銀、銅に限らずそれ以外の鉱山資源の採掘もおこなうべきである」と提言している。



盛明橋：橋名は1875年の完成当時、生野鉱山長であった朝倉盛明の名が付けられた。当初、木製の橋だったが、永久橋へ架け替え、1999年に架橋工事が行われた。

コワニエの各地での鉱山調査

1870年3月、コワニエは鉱山司(明治政府の鉱山行政機関)の命により、大和国吉野郡の柴園山、高原山、初尾山、天和山、北山の各鉱山を調査し、「銅鉱は産出の見込みがあるが、金・銀は望みがない」と報告している。1873年6月、住友家の依頼により別子銅山を視察した。含銅硫化鉄鉱床を観察し、広瀬に「鉱石処理により硫酸製造すること。湿式精錬法を採用すること」をアドバイスしている。なお、住友は、銅鉱石から硫酸分(亜硫酸ガスの成分)を抽出して硫酸・肥料を製造、環境問題の克服と農業の生産性の向上を図る今日の住友化学の礎を築くこととなった。

1876年6月から9月にかけて、東北、北海道で鉱山視察している。半田銀山視察は、五

代の依頼によるもので、半田銀山にて鉱山権頭・大島高任(1826-1901 盛岡出身)で、長崎では採鉱術を学び1871年の岩倉使節団に同行、欧州の鉱山を視察。技師と合流している。半田銀山では、コワニエは大島技師の依頼により選鉱水の沈殿泥の分析結果を次のように報告(1876年6月21日)している。

「貴殿のご依頼により、選鉱排水中の沈殿渣泥について粗分析を行いました。この結果によれば、この泥は極めて微細な石英と粘土しか含んでおらず、空气中にさらされてもその塩類を生成するような可溶性塩類、および化合物は一切含んでいません。したがって、この泥を水に希釈したままでは農業に害を与えることは全くありません。」

コワニエと大島はその後、院内銀山(秋田県湯沢市)を視察している。院内銀山は1606年、村山宗兵衛らにより発見された。金及び銀を産出し、江戸時代を通じて日本最大の銀山であった。久保田藩(秋田藩)が管理、藩の財政を支える重要な鉱山であったが、江戸時代中期、鉱脈の枯渇により一時衰退するも、1800年以降新鉱脈発見で回復。最盛期には、戸数4,000、人口15,000、城下町久保田(現在の秋田市)を凌いでいたが、明治時代に入ると経営権が工部省に移り、1881年9月、明治天皇が院内銀山を幸した。1884年には工部省から古河市兵衛に払い下げられ、古河の近代的な鉱山経営によって銀の産出量は増加し、明治時代には日本第4位の銀山であった。

五代友厚の半田銀山経営前史

『財界物語傑作伝』(1936 実業の世界社編)に、間違つて(縦線部分)こう記されている。

「明治2年(1869)民間に下るやにせ金流通の余弊に鑑み、要路にある大久保利通に

建白し、みずから金銀分析所を今宮に設けて、全力を傾け各藩のにせ金を買集め、分析してわが国貨幣の統一を図り、明治3年には堺紡績(のちの岸和田紡績)を興した。同6年(1873)には大阪に弘成館鉱業所を置き、外人技師を招いて、まず福島県下の半田鉱山を手に始めに、大和の天和銅山、越後の赤倉銅山はじめ全国十数カ所の金銀銅山の開発に当たった」

八木孝昌著『新・五代友厚伝』(2020年)から引用すると、五代の鉱山入手年次は次のようになる。

- ・1871年10月、天和山(銅・大和国吉野郡天川郷和田村)
 - ・1872年、赤倉山(銅・大和国吉野郡北山西野村)、金平山(金・加賀国能美郡金平村)
 - ・1872年11月、蓬(よもぎ)谷山(銀、銅・近江国愛知郡政所村)
 - ・1874年3月、山内山鉛・近江国愛知郡政所村茨茶屋村山内、鏡山(銅・美作国、和気山(銅・銀・備前国和気郡樫村))
 - ・1874年6月、神崎山(銅・豊後国南海郡木浦村、大野郷尾平村)
 - ・1874年7月、半田山(銀・岩代国(現福島県伊達郡北半田村)、水沢山(水銀・伊勢国三重郡水沢村))
 - ・1874年、亀谷山(銅・越中国新川郡亀谷村)
- など29カ所の金銀銅山等の開発に当たった。

白井が「五代とコワニエの出会い」は、後に、薩摩の山ヶ野金山、生野銀山、五代が下野後に経営した半田銀山の開発とつながり、日本の鉱山事業に大きな影響を及ぼすことになる」と言及するように、五代は天和銅山、半田銀山等の鉱山開発で得た資本力をもって、大阪経済の立て直しに邁進していくのである。

注記：コワニエは、コワニエ、コワニエとも表記されるが本文では「コワニエ」と表記。



現在、地区活動などを説

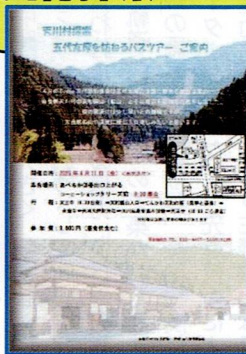
第21回 Dream 五代塾セミナー 五代友厚ゆかりの地 天川村探索

開催：2025年4月11日(金)

Dream 五代塾ゆかりの地探索企画は、これまで大阪市内3コースを実施してきた。今回久しぶりの現地学習となった。マイクロバスをチャーターし19名参加で天王寺駅前をスタートした。



共催
五代友厚顕彰会



Dream 五代塾活動状況



左右：本抗口
左中：原石を溶かし、インゴットを造った場所
左左：本抗口への山道
(2018年当時の写真)



明頂いた。また、昼食時には地元会員婦人部の手作り弁当とアマゴ焼きを、現在は廃校となった旧和田小学校教室内で童心の気持ちで頂き、楽しいひと時を過ごした。

今回のツアーは天和山に登ることは出来なかったのですが、筆者が2018年に登った写真を紹介する。尚、一般道からの入り口には、天和銅山跡の説明看板が建て

天和銅山跡説明看板



られて

説明看板には「...全盛期は明治の前半で、多い時には全国から来た20000〜30000人もの鉱夫が働き、...精錬された銅(インゴット)は馬に積まれて和田の下流の西の谷を武士ヶ峰へと登り、矢ハツ峠から西吉野の下つて五條へと運ばれました。最盛期には毎日50〜60頭の馬が使役されたといえます。この銅山は、江戸時代には幕府の直営でしたが、1871年(明治四年)以降は薩摩の政商・五代友厚(大阪商工会議所の創始者)の経営になり、1889〜1890年頃が最も盛況だったといえます。...」

天川村ツアーには現役の学生さん2名参加で、見学の内容や感想をツアーの前半、後半に分担し寄稿頂きましたので以下に紹介します。(川口建)

「五代友厚さんの歴史を辿る」

天川村探索」

名古屋 七虹

(大阪公立大学)

現代システム科学域2回生

ほとんど知識の無い私であったが、新しい



事を知りたいという好奇心に駆られて奈良県天川村へ足を運んだ。五代の名前は知っていたが、その功績や偉大さを理解していないという人は多いだろう。特に私は東北出身であるため、西日本の歴史や情勢に疎い所があるかもしれない。しかし、今回のツアーを通して彼は大阪経済の発展に大きく貢献した実業家であり、先見の明と実行力から多くのの人に慕われていたのだと学んだ。それと同時に、彼が歴史の影に隠れていることにもどかしさを感じるようになった。



バスに揺られて満開の桜を眺めながら天川村へ向かう。まず、私たちは永豊寺を訪れた。歴史を感じさせる静かでお寺で、今は浄土真宗だが元々は曹洞宗だったそう。本堂に入ると荘厳で立派な本尊が私たちに迎える。神秘的な雰囲気、心が浄化されるようであった。ここで、



横8尺1本(ケヤキの古名・242cm)
縦9尺1本(スギの古名・273cm)



天和銅山は五代友厚が鉱山経営の一番最初に手がけた鉱山で、その成功のおかげでその後の鉱山事業を開拓することができた。この歴史の始まりの地に足を運ぶことができて、素人の

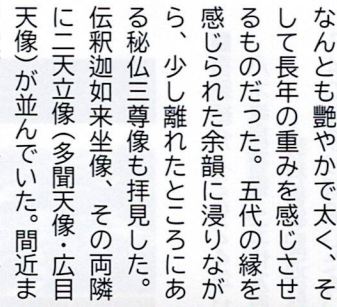


室町時代には世阿弥の子である十郎元雅が参詣し、「唐船」という演目を神前に奉納。能面を寄進し、「心中所願成就」を祈願した歴史が伝わる。神社には今も、能面や装束、謡本など国の重要文化財や県指定文化財が二百点

くの人望を集めたことに納得する。

次に訪れたのは「てんかわ天和の里」。2002年に廃校となった和田小学校の木造校舎をそのまま活用し、自然と歴史の交流拠点としてパーバキューや歴史展示物など様々な活動を行なっている。五代友厚が経営した「天和銅山」の近くに位置し、義務教育がまだないでいない当時に彼は4年間350円(現在で700万円)もの支援を行っていた。このことから、五代友厚の優れた人間性を感じ、多くの

お寺は心に安撫をもたらしてくれる。



あったそう。それは、8尺と9尺にまでも及ぶ一本柱を寄進されていたことだ。実は最近までこのことは発見されていなかったそう。偶然壁にかかっている寄付者の木札一覧から五代龍作(友厚の長女・武子の婿)さんの名前が発見された。実際に柱を触ってみると、

私でも心が震えた。

「てんかわ天和の里」では他にも、歴史展示物を鑑賞したり、地元の方々手作りのお昼ご飯も頂いた。どれも普段触れることのできない刺激で、心に栄養が届くような一日だった。



数十年前?の小学生時代を思い出し、教室で昼食。



「霊験あらたかな天川辨財天と、人情と挑戦が息づく洞川温泉街を歩く」

高橋 志絵瑠

(関西大学商学部4回生)

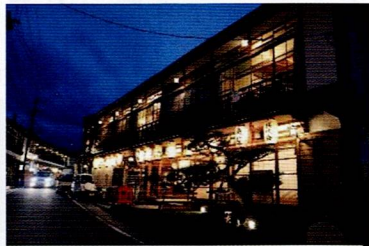
天川村探索午後の部では、天川村の歴史と文化の中心地ともいえる「天河大辨財天社」へ参拝した。ここは日本三大弁財天の一つに数えられ、五大辨財天の筆頭に位置づけられる霊験あらたかな社であり、古来より芸術・文学・音楽・弁舌の神として信仰を集めている。





彼らは「人が減
つていくからこ
そ、ここに新し
い価値を生みた
い」と、地域資源
を活かしながら
独自の視点で店
舗を運営してい

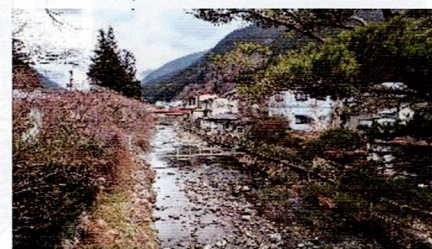
以上所蔵されて
おり、芸術の神
を祀るにふさわ
しい格式と深み
を感じさせる。
また、天川村
は南北朝時代に
南朝の皇族を支
えた地としても
知られ、現在も「位衆おとな組」による御朝拝
式が続けられている。その歴史的精神が脈々
と受け継がれていることも、訪れる者の心を
打つ。さらに、菅原道真や豊臣秀吉など、歴史
上の著名人たちの参拝の記録も残されてお
り、時代を超えて人々の心を惹きつけてきた
場所であることが分かる。
その後、参加者は洞川温泉街を自由に散策
した。古くからの
温泉宿や薬局、木
造の喫茶店が立ち
並び情緒ある街並
みに加え、最近で
は若者たちによる
新たな試みが街に
彩りを添えてい
る。地元出身や移
住者の若者が開い
たクラフトビル
の居酒屋、地元産素材にこだわったカフェ、伝
統と現代感覚が融合した雑貨店などが目を引
いた。



洞川温泉街の夜の風景(2018年撮影)

音楽と芸能の神様、天河大辨財天社
天川村パンフレットより

る。都市部のように
ぎやかさはないが、そ
の分、地域の声に耳を
傾け、人とのつながり
を重んじた取り組み
が生まれている。こう
した活動は、観光地に
とどまらない「暮らし
の拠点」としての洞川
の魅力を再発見させ
てくれる。ただ観光す
るのではなく、地域に
関わり続けたい、応援したいという気持ち
が自然と芽生える。地方創生とは、政策ではなく
「人」で動くということを、彼らの存在が体現
していた。訪れた参加者たちも、「地方の未来
はこうした小さな挑戦から広がっていく」と
口々に語り、深い
感銘を受け
ていた様子だ
った。
歴史と文化、
そして未来へ
の希望が交錯する天川村。午前は、五代友厚が
再興した天和銅山跡を訪ねて、天和銅山と五
代友厚を次の世代に伝える活動をされている
一般社団法人「てんかわ天和の里」の皆さんと
の交流、午後のツアーでは、信仰と芸術、そし
て人と人のつながりを改めて感じられるひと
ときとなった。

歴史と文化、
そして未来へ

◆第22回 Dream 五代塾セミナー予定

日時：2025年6月21日(土)

14時～16時(原則毎月第3土曜日)

テーマ：『開学の祖 五代友厚小伝』全18話
内第10話 金銀分析所と

改訂版薩摩辞書刊行

場所：川口宅

会費：1000円(懇親会費含む)

お知らせ・その他

■企画展

「よみがえる半田銀山と五代友厚」

日程：2025年7月25日(金)～

9月15日(月祝)

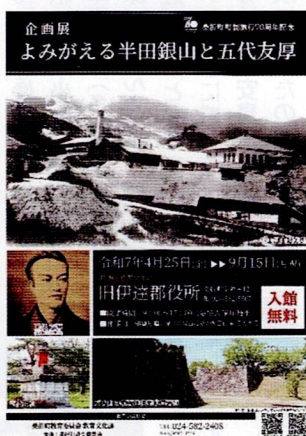
場所：福島県桑折町「旧伊達郡役所」

主催：桑折町教育委員会

昨年11月10日には五代友厚による銀山
再興150年記念イベント「半田銀山シン
ポジウム」が開催され、脚本家の大森美香
さん、漫画家の安彦良和さん、大阪の五代
友厚顕彰委員会が講演をされた。

今回の企画展は桑折町町制施行70周年
記念として実施される。

尚、9月第一週土曜日に「半田銀山と五
代友厚」の企画が進められており、ご期待
ください。改めて募集しますが、参加を希
望される方は予定しておいてください。



■書籍紹介(2024年11月3日発行)

八木孝昌著書『五代友厚名誉回復の記録』

教科書等記述訂正をめぐって

140年余り経過した今、やっと五代の汚
名が晴らされた。本書でその過程をつぶさに
知ることが出来る。教科書書換えの機運が高
まり、関わっていく方々のベクトルを合わせ
ることで五代友厚へ引き込まれていくのが感
じられる必読の一冊だ。ぜひご覧ください。

編集後記

映画製作の意義について

映画『天外者』の田中光敏監督の来年公開予定の**仮題『北の流水』**は、1950
年代に森林伐採で砂漠化した、襟裳地方の荒れ地に地元漁師らが植林し、豊
かな森と海を蘇らせた史実を映画化するものだ。

田中監督は、以前よりトルコ艦隊エルトゥールル号座礁を描いた『海難1890』で非常に人間味
のある感動的な内容で和歌山県大島の町おこしや、忘れ去られている知られざる史実を、世に送り
出している。映画『天外者』の五代友厚の利他の精神や富国への志も明らか。

今回は監督の生まれ故郷の北海道浦河町と様似町・えりも町・広尾町の四町が映画
製作に協力している。地元の人々の弛まぬ努力などは、文字では認識しにくい
映像で表現することにより、よりリアルに人々に訴えることが出来る。現に今回訪れ
た浦河町役場、えりも町役場には大きな横断幕、また監督の今までの作品などを
展示し、広く世間に知ってもらうため、ふるさと納税など含め広報や町民をはじめ
たくさんの方々の協力を訴えている。今こうして生きている私たちは、たくさんの方
々の努力のおかげで生かされていることを知ることは大きな意義があり、
そこに映画製作の意義があると思うが皆様いかがでしょうか。(川口由美子記)

(連絡先:川口建)

Email:gogoken12345@gmail.com

Tel:080-4497-5688

HP:<https://www.dream-godai.com>

